

阿 A S O 蘇



■市章

阿蘇のローマ字の「A」と「S」の文字をモチーフに、阿蘇市の将来像である「緑いきづく火の神の里」のイメージを表し、阿蘇市の魅力と活気あふれる繁栄と発展を表現したデザインです。



■市の花 「リンドウ」

野焼き後の真つ黒な草原に、命の息吹を感じさせ、青紫色の可憐な花を咲かせるハルリンドウは、阿蘇の春を代表する花です。また、秋には秋咲きのリンドウが草原を彩ります。



■市の木 「ミヤマキリシマ」

ミヤマキリシマは、仙酔峽、高岳、阿蘇山上一帯に大群落をなして自生しており、5月に紅紫色の花を咲かせます。毎年、多くの市民や観光客に喜ばれています。



■市の鳥 「キジ」

キジは、色鮮やかで優美な姿で知られ、阿蘇では草原や林の中で、年中姿を見ることが出来ます。また、童話等を通じて親しみが知り、市民にも広く知られています。



2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核を成す「持続可能な開発目標」であり、先進国を含む国際社会共通の目標です。

本市においても、総合計画で取り組む方向性は、国際社会全体の開発目標であるSDGsの目指す17の目標と、目指すべき方向性は同じであることから、総合計画の推進を図ることでSDGsの目標に繋がるものと考えています。

2023 阿蘇市市勢要覧

発行年月 / 令和5年4月
 発行 / 阿蘇市 総務部 企画財政課
 〒869-2695 熊本県阿蘇市一の宮町宮地504番地1
 TEL: 0967-22-3204 (直通)
 FAX: 0967-22-4577
 写真協力: 熊本県

目次 (CONTENTS)

| | |
|-----------|----|
| 発行にあたって | 3 |
| 市の概要 | 5 |
| 自然・観光 | 7 |
| 文化・歴史 | 9 |
| 祭り | 11 |
| 施設 | 13 |
| 学校教育 | 15 |
| 生涯教育 | 16 |
| 保健 | 17 |
| 福祉 | 18 |
| 自然環境 | 19 |
| 生活環境 | 20 |
| 防災・防犯 | 21 |
| 医療機関 | 22 |
| 農業・林業・畜産業 | 23 |
| 商工業・観光業 | 25 |
| 阿蘇市総合計画 | 27 |
| 行政 | 29 |
| 議会 | 30 |

阿蘇市イメージキャラクター



あか牛くん



五岳くん



火の子ちゃん

■ 市民憲章

第1章 自然と郷土を愛し、美しいまちをつくりまします。

第2章 互いに協力し、元気ではたらかし活力に満ちたまちをつくりまします。

第3章 きまわりを守り、誠をつくし、豊かで思いやりのあるまちをつくりまします。

第4章 文化を継承し、教養を高め、情操を育てて格調高いまちをつくりまします。

第5章 伝統を重んじ、創意工夫をし、希望にあふれるまちをつくりまします。



発行にあたって

阿蘇市は、先人たちにより守り育まれてきた雄大な自然や、阿蘇神社をはじめとする歴史遺産や伝統文化など、人々の営みの中で受け継がれてきた多様な地域資源に恵まれています。

かけがえない財産を後世に伝えていく取り組みの中で、平成25年に世界農業遺産、平成26年世界ジオパークに認定と世界的な評価を相次いで受けることができました。

一方で、度重なる自然災害からの復旧・復興、少子高齢化や若年層の都市部への流出による地域の担い手不足への対応など、本市を取り巻く状況は、多くの課題が山積し、かつ多様化・複雑化しています。

こうした厳しい状況のなか、令和3年9月に第2次阿蘇市総合計画(後期基本計画)を策定しました。将来都市像として掲げた「人がつながり創りだす新しい阿蘇～ONLY ONEの世界へ～」は、人と人のつながりから生じるパワーを基にチャレンジを繰り返し、新しい阿蘇市を創造・発信しようという思いが込められています。

この将来都市像の実現に向けて、市民一人ひとりが輝き、地域が輝き、暮らして良い、訪れて良い、魅力あふれる阿蘇市を築いてまいります。

皆様方におかれましては、今後とも本市の取り組みにご支援とご協力をいただければ幸いに存じます。

阿蘇市長 佐藤 義興



PHOTO: 以前の阿蘇中岳火口と湯だまり。

現在、火口周辺の整備を進めています。

阿蘇市の概要



阿蘇市

阿蘇市は、熊本県の北東部、阿蘇地域のほぼ中央に位置しており、熊本県と大分県の県境を有し、大分の2市を含めて8つの市町村と隣接しています。市域は東西約30キロメートル、南北約17キロメートルで、面積は376.30平方キロメートルとなります。

地形は、阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラや広大な草原を有し、比較的平坦地の多い阿蘇谷とそれを取り巻く阿蘇外輪地域で形成されています。市の大部分が阿蘇くじゅう国立公園内にあり、野焼きに代表される人と自然の共生によって守られてきた広大な草原や、オオルリジミをはじめとする阿蘇特有の希少動植物など豊富な自然と様々な地域資源に恵まれています。

気候は、年平均気温約13℃、年間降水量約3000ミリメートルで、四季を通じて比較的涼涼で多雨な地域です。

産業は、平坦地での稲作や園芸作物、山間地での高冷地野菜づくりを主とした農業と雄大な自然景観や阿蘇神社をはじめとする歴史遺産を活かした観光が主となります。

700万本のソバの花

交通

阿蘇市の交通網は、東西に横断するJR豊肥本線と、それに並行して走る国道57号、南北を縦断し大分県日田市と結ぶ国道212号、大分県別府市と結ぶ主要地方道別府一の宮線(通称やまなみハイウェイ)、南阿蘇地域と結ぶ国道265号が主要道路となっています。主要都市までの交通アクセスは熊本市中心部まで約50キロメートル、福岡市中心部まで約145キロメートル、大分市中心部まで約75キロメートル、阿蘇くまもと空港は約35キロメートルとなります。

国道57号は、4車線化の推進により熊本・阿蘇間の時間短縮が図られてきましたが、平成28年熊本地震により一部区間が通行不能になったことから、北側復旧道路の新設及び現道の復旧が進められ、令和2年10月3日に2ルートともに開通しました。また、JR豊肥本線は、肥後大津駅〜阿蘇駅間で不通となっていました。令和2年8月8日に全線開通となりました。

人口

令和2年国勢調査による人口は、24,930人で、平成27年の27,018から約2,088人減少しています。昭和30年をピークに迎えて以降、転出者が転入者を上回る社会減、出生数が死亡数が上回る自然減の両面から、人口減少が進んでいます。

世帯数は人口の減少に反して増加しているため、1世帯当たりの人口は減少を続けており、世帯の小規模化が進んでいます。

年齢層別構成

0〜14歳の年少人口が2,778人、15〜64歳の生産年齢人口が12,035人、65歳以上の老年人口が10,051人です。平成7年と令和2年を比較すると、高齢化率は13.3%の増加、生産年齢人口は12.3%の減少となっています。中でも高齢化率は熊本県や全国の結果より高く、少子高齢化が著しく進んでいることがわかります。

産業別構成

産業別就業者数は、令和2年国勢調査では、第1次産業が2,368人、第2次産業が2,842人、第3次産業が7,373人となっています。

本市は、熊本県や全国よりも第1次産業の従事者の割合が高く、進んでいます。また、人口の減少に伴い各産業の就業者数は、減少を続けています。

阿蘇市の歴史

| | |
|-------|--------------------------|
| 平成17年 | 一の宮町、阿蘇町、波野村が合併して「阿蘇市」誕生 |
| 平成18年 | ASO田園空間博物館総合案内所が落成 |
| 平成19年 | 阿蘇インターネット放送局開局 |
| 平成20年 | 波野中学校新校舎が落成 |
| 平成21年 | 汚泥処理再生センター赤水完成 |
| 平成22年 | 阿蘇神社が国の重要文化財に指定 |
| 平成23年 | ASO環境共生基金設立 |
| 平成24年 | 東部森林基幹林道開通 |
| 平成25年 | 第4回全国青楓祭が阿蘇市「阿蘇みんなの森」で開催 |
| 平成26年 | 阿蘇市内を横断する幹線道路整備に着手 |
| 平成27年 | 内牧支所が新築・移転 |
| 平成28年 | 道の駅「阿蘇」開駅 |
| 平成29年 | 阿蘇地域が日本ジオパークに認定 |
| 平成30年 | 内牧ファミリアパーク「あそ☆ビバ」オープン |
| 令和元年 | 阿蘇駅前ロータリー完成 |
| 令和2年 | 阿蘇西ふれあい市場 |
| 令和3年 | 「あかみず」オープン |
| 令和4年 | 阿蘇インターネット光運用開始 |
| | 第1回大阿蘇火の山まつり開催 |
| | 第1回大阿蘇元気ウオーク開催 |
| | 九州北部豪雨 |
| | 阿蘇中学校開校 |
| | 阿蘇地域が世界農業遺産に認定 |
| | 阿蘇小学校開校 |
| | 火の国阿蘇の恵みのブランド「然」発信開始 |
| | 阿蘇医療センター開院 |
| | 阿蘇市誕生10周年記念式典 |
| | 阿蘇草原保全センター開館 |
| | 阿蘇中岳大規模噴火(噴火警戒レベル3) |
| | 阿蘇中岳噴火(噴火警戒レベル3) |
| | 熊本地震 |
| | 熊本地震(噴火警戒レベル3) |
| | 阿蘇中岳中規模噴火 |
| | 阿蘇中岳中規模噴火(噴火警戒レベル3) |
| | 阿蘇警察署一の宮駐在所開所 |
| | 坂親保育園新園舎への移転 |
| | 阿蘇中部地区広域農道全線開通 |
| | 防災行政無線デジタル化事業竣工 |
| | 阿蘇警察署一の宮駐在所開所 |
| | 坂親保育園新園舎への移転 |
| | 阿蘇中部地区広域農道全線開通 |
| | 防災行政無線デジタル化事業竣工 |



国道57号北側復旧道路

阿蘇ユネスコジオパーク

●米塚ジオサイト（国指定名勝及び天然記念物）



草千里を照らす星空

阿蘇ユネスコジオパーク

●中岳ジオサイト



上空から見た阿蘇中岳火口

美しき自然を世界へ発信。
愛される阿蘇の魅力。

阿蘇市は、豊かな「自然」を
活用した観光が自慢です。

阿蘇ユネスコジオパーク

●古閑の滝ジオサイト



阿蘇ユネスコジオパーク

●仙酔峠ジオサイト（5月頃のミヤマキリシマ）



阿蘇ユネスコジオパーク

●荻岳ジオサイト



これらのスポットの中には、ユネスコの正式事業となった阿蘇ユネスコジオパークのジオサイトがあり、阿蘇火山の大地と人間生活に触れ、生きた阿蘇の魅力に迫る感動の体験ができる場所があります。

阿蘇市は、世界最大級のカルデラや、阿蘇中岳火口をはじめとする魅力あふれる自然と、阿蘇神社や神楽などの伝統・文化施設、多数の宿泊施設が立地した温泉地など、多くの観光スポットを有するまちとして繁栄してきました。

阿蘇ユネスコジオパーク

●草千里ジオサイト 直径約1kmもある火口跡で、今は美しい草原となっています。



草千里ヶ浜から火口を望む



草千里ヶ浜で乗馬を楽しむ観光客



手野の大杉（国造神社内）



野焼き風景（3月頃）



冬の中岳と登山道に見られる樹氷



大観峰から望む「阿蘇の五岳」

阿蘇ユネスコジオパーク

●大観峰カルデラジオサイト

明治の文豪、徳富蘇峰が、その雄大な景色を見て名付けた展望所『大観峰』からは、見事なカルデラの形、お釈迦様が寝そべったよう（「涅槃像」（ねはんぞう））に見える阿蘇五岳や九重連山などを見ることができます。年に数回、阿蘇谷が湖になったかのような幻想的な雲海を見ることができます。

神々の郷に残る太古からのメッセージ 受け継がれる文化の遺伝子

**市民の生活のなかに生き
続ける歴史と文化・伝統**

豊かな自然環境に恵まれた阿蘇には、独自の風土に培われた文化があります。

近年、地域文化資源や歴史的遺産への関心と学習意欲が高まっており、地域住民と連携し文化振興を推進しています。



阿蘇神社（国指定重要文化財）

阿蘇神社は、延喜式に記載される古社で、中世には肥後国一の宮として崇敬され、孝霊天皇9年に初代阿蘇国造の連磐玉命により創建されたと伝えられます。阿蘇開拓の祖神、健甕龍命をはじめ12神をまつており、末社は全国に500社を超えます。平成19年に一の神殿・二の神殿・三の神殿・楼門・神幸門・神幸門の計6棟が国の重要文化財に指定されました。平成28年熊本地震では、楼門が倒壊するなど重要文化財に被害が出たほか、拝殿などその他の歴史的建造物にも大きな被害が発生しました。現在復旧工事が進められています。

阿蘇の農耕祭事（国指定重要無形民俗文化財）

阿蘇神社や関係の神社では、稲の生育過程に沿った段階的な稲作儀礼が今に伝えられています。これらは、大自然の恵みに感謝する古の人々の素朴な祈りが“かたち”としてよく現れています。

この一連の祭りは、稲作儀礼の典型であると評価され、昭和57年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

祭りの対象となる地域は、氏子区域を越えて阿蘇谷全体の広範囲に及んでおり、その素朴な祭祀と長閑な自然との調和は、古式ゆかしい風景を醸し出しています。



火焚き神事



伝承の技は親から子へ、子から孫へ
確実に受け継がれています。

**中江の岩戸神楽
（国選択無形民俗文化財）
横堀の岩戸神楽
（市指定民俗文化財）**

中江・横堀地区の神楽は、豊後神楽の系統で大分県から伝わったものとされています。中江の岩戸神楽は、明和2年（1765）に大野川流域の村々を経て、御獄流の33座が継承されています。横堀の岩戸神楽は、文政6年（1823）には始まっており、深山流の13座が継承されています。

阿蘇の虎舞

阿蘇に伝わる虎舞は獅子頭で演じます。阿蘇神社に奉納される獅子舞に連鹿し、地域のレクリエーションとして受け継がれ、演じてきたものを虎舞と呼んでいます。厳しい生活の中で、獲得した豊作への感謝と来年の豊作の願いを含め、農耕文化から誕生した芸能です。

歴史ある文化財



**阿蘇の文化的景観
（国選定重要文化的景観）**

長年にわたり人の手によって維持されてきた日本最大の草原景観で、牧野として利用されるほか、希少野生動植物にとって重要な生息域となっています。



天神橋（市指定建造物）

弘化4年（1847）に架けられ、石工の卯助は臺台橋も手がけています。



**豊後街道二重峠石畳
（国指定史跡）**

九十九折の急坂を長さ約1.6km、幅約3mの道に側溝・水切り等が設けてあります。



**乳の木
（市指定天然記念物）**

樹幹5.4m、樹高2.9m、樹齡200年以上と伝えられています。



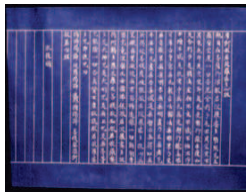
**米塚及び草千里ヶ浜
（国指定名勝及び天然記念物）**

神話や詩歌の源泉となった優美な風景で、阿蘇山噴火史の特質を示す2つの火山として重要です。



**西巖殿寺山上本堂の仏像
（県指定彫刻）**

本尊は健甕龍命の本地仏の現存最古のもので樟材の一本造。平安時代後期頃の作品です。



**紙紮泥般若心経後奈良院宸翰
（国指定重要文化財）**

後奈良天皇が諸國の一の宮に奉納し国家の安泰と国民の幸せを祈ったものです。



**中通古墳群
（県指定史跡）**

前方後円墳2基と円墳8基による熊本県を代表する古墳群です。

阿蘇市内には国・県・市指定等の有形文化財40件、民俗文化財19件、記念物70件、文化的景観1件、合計130件があります。（令和4年11月現在）



横参道の桜 (3月下旬~4月上旬)

全国的にも貴重な阿蘇神社の横参道を桜の花びらが彩ります (楼門は平成28年熊本地震で倒壊、令和5年中には復旧予定です)。



バラ祭り (4月下旬~6月上旬)

西日本最大級のバラドーム温室に450種4,000株の世界中のバラが咲き誇ります。期間中は「バラ祭り」としていろいろな催しが開催されます。

ミヤマキリシマ

仙酔峡 (5月上旬~中旬)、草千里ヶ浜・阿蘇山上一帯 (5月下旬~6月上旬)

阿蘇中岳と高岳の北側中腹の溪谷にミヤマキリシマ(ツツジ)が咲き乱れます。その美しさは仙人も酔うほどだといわれ、仙酔峡と名付けられました。

また、草千里ヶ浜・阿蘇山上一帯でもミヤマキリシマが鮮やかな紅紫の花を咲かせます。



仙酔峡のミヤマキリシマ



草千里ヶ浜のミヤマキリシマ

長寿ヶ丘公苑 (ツツジ) (4月下旬~5月上旬)

狩尾地域の方々が管理する長寿ヶ丘公苑に1万株のツツジが山肌にピッシリ。阿蘇五岳が一望できるビュースポットとしても楽しめます。トイレ・駐車場も完備。



スズラン自生地 (5月頃)

日本最南端のスズラン自生地として知られる「波野のスズラン」。開花時期には波野高原に5万株の花が咲きます。



自然豊かな環境や伝統をいかした祭り、長い歴史のなかで変わらぬに守り伝えられた神事など、阿蘇市には独特の祭りがあります。
また、地域活性化などを目的に、市民主体の催しが各地域で行われています。
これらの祭りは、1年を通して阿蘇の魅力が堪能することができます。

先人から受け継がれた歴史ある祭り

おんだ祭り (御田植神幸式・7月)

阿蘇大明神が阿蘇開拓と農耕の道をひろめた神徳をたたえ、年々の豊作を祈るもので、青々とした、阿蘇の田園の中をゆったりと進む宇奈利は、盛夏の阿蘇谷にいにしへの古式ゆかしい絵巻を見るような感激を与えてくれます。



神楽フェスティバル (10月)



県内外から多くの神楽団体が集い、舞を披露しあう神楽の祭典。平成29年には初めての夜神楽を披露

火振り神事 (3月)



農業神が姫神をめとる「御前迎え」の儀式の一環で、御神体を迎えるため、繩の先の芽束に火をつけて振り回す様子は美しく幻想的。

自然と伝統を生かした祭り

大阿蘇元気ウォーク (9月頃)

雄大な自然を感じながら市内の各史跡や名所をゆっくりと堪能できるウォーキングイベント。



大阿蘇火の山まつり (8月)

市民の夏祭りとして長年親しまれてきた祭り。



阿蘇坊中温泉 夢の湯

源泉掛け流しの天然温泉！県産木・檜や杉をふんだんに使った温泉館。茶褐色の湯でやわらかい温泉です。



四季彩いちのみや

阿蘇の山並みを一望できる直売所で地域の農家が愛情たっぷりに育てた野菜などが並びます。



道の駅 波野「神楽苑」

神楽公演の屋外劇場と神楽資料館、物産館、レストランがあります。特に特産物「そば」や高原野菜、山菜が人気で、連日多くの人を訪れます。



ASO MILK FACTORY

パラドーム温室とイングリッシュローズガーデンを中心とした施設です。その他、物産館・レストラン等があります。



古代の里キャンプ村

オートキャンプやフリーキャンプ、冷暖房や浴室を完備したコテージ、パーベキュー施設があります。



阿蘇草原保全活動センター

阿蘇の草原を学び、楽しむための施設です。相談窓口やワークスペースがあり、草原に関する情報発信等を行っています。また、草原等のイベントが行われる芝生広場もあります。



なみの高原やすらぎ交流館

廃校になった小学校を活用した宿泊・研修施設です。

阿蘇市は、グラウンドや体育館などのスポーツ施設、物産館、宿泊・研修施設、温泉センターなど、数多くの公共施設があります。自然との調和と共存、そして心の豊かさを求められるよう、様々な施設・設備を充実させています。

特に、スポーツ合宿等の受け入れ体制の充実を図った施設や、高冷地野菜直販所などを兼ねた休憩所などは、市民のみならず市外の方からも多く利用されています。

地域の特色を生かした公共施設を整備しています。



道の駅「阿蘇」

阿蘇五岳を正面に望むという特異なロケーションをいかして、優れた景観が見られるよう整備されています。また、国道57号、国道212号、阿蘇登山ルートに面し、JR阿蘇駅にも隣接しており、休憩だけでなく阿蘇の回遊、情報発信の拠点として多くの人々が利用しています。



ASO田園空間博物館（道の駅「阿蘇」併設）

休憩・情報発信・地域の連携機能の3つを併せ持った総合案内所。また、館内では阿蘇の物産品の展示や販売も行っています。



阿蘇内牧ファミリーパークあそ☆ビバ

阿蘇中央公園に隣接する楽しさ満載の大型コンビネーション遊具施設です。



のびのびと個性を育む学校教育

のびやかな教育を進め、情緒豊かな個性ある児童・生徒を育成

心豊かな阿蘇市民を育成するため、意欲的に学習に励むための必要な教育環境を整え、すべての子供たちに確かな学力、豊かな心を育むとともに、体力の向上をめざす学校教育をしつかりと支援しています。



高校生を講師に迎えたサマースクール



波野子ども神楽部



野焼き体験（2月）

コミュニティ・スクールへの取組み

コミュニティ・スクールとは、「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みのことです。
保護者や地域住民等の学校運営に対する参画推進や、連携強化を進めることで、学校と保護者、地域住民との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組めます。



タブレットを使った授業



稲刈り体験（10月頃）

生涯学習を通して個性あふれる活力ある地域づくり

個性あふれる生涯学習都市づくりの実現に向け、趣味・教養を高めて明るい毎日が過ごせるよう、社会教育団体等と連携しながら公民館活動など組織づくりと活動の拡大を図っています。

また、子供たちの放課後の空いた時間を有効活用するために、放課後子ども総合プラン推進事業や地域住民の参画により、子供たちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動事業を推進するなど、地域全体で子供を育てるシステムの構築を図っています。

社会体育は、市民スポーツ大会、地域対抗市民駅伝大会などの実施（総合型地域スポーツクラブ）を通して、スポーツを通じた健康で活力ある地域づくりや人づくり及び生涯を通じた体力づくりの環境を提供しています。大人も子供もライフサイクルの各期に応じた魅力ある学習機会、学習内容の充実を図り、互いに高めあえる生涯学習社会づくりを推進しています。

「火の山スポーツクラブ」

（総合型地域スポーツクラブ）



総合型地域スポーツクラブとは、『いつでも・どこでも・だれでも』をテーマに、生涯にわたってスポーツを楽しみながら、学校、世代、種目等にとらわれず地域の交流を図るクラブです。運動を習慣化することで、健康水準が改善され、医療費の抑制にも繋がります。

令和4年9月現在、12種目（卓球（硬式・ラージボール）・ゴルフ（練習場・ゴルフ場）・ショートテニス・ウオーキング・パドミントン・ピラティス・ソフトテニス・サッカー・テコンドー・骨盤エクササイズ・エンジョイランニング・クラシックバレエ）の活動を実施し、子供から高齢者まで楽しく活動を行っています。

農村公園あびか

各種スポーツ・イベントなど幅広く利用できる多目的グラウンドや陸上競技場、ちびっこ広場、弓道場などがあり、地元のクラブ活動、県内外からのスポーツ大会・合宿等で利用されています。



阿蘇体育館

屋内スポーツに加えコンサートや講演会などに利用できる多目的総合体育館で、武道場、トレーニング室、冷暖房設備などを備え、幅広く利用されています。



魅力ある学習機会、世代間交流で 活気に繋げる生涯学習



阿蘇図書館



地域対抗市民駅伝大会

包括的な保健体制で

心と体の健康づくり

生涯を通じた、市民の健康づくりを積極的に支援

健康は日々の生活習慣によって作られていきます。

生涯を通じて市民の健康を守るために、本市では乳幼児や成人の健康診断、各種がん検診及び生活習慣病予防のための保健指導や家庭訪問を行っています。少子化・高齢化社会が到来している中で、自身の健康に関心を持ち、自主的な健康習慣の継続ができることを目指しています。



乳幼児健診



健康教育



住民健診



「いきいき教室」

日常生活に必要な能力の維持向上を目的とした「いきいき教室」を65歳以上の方を対象に実施しています。
この教室では、運動能力の低下や閉じこもり、軽度認知症などの予防を目的として、体操や脳活性化トレーニング、健康講話を行います。

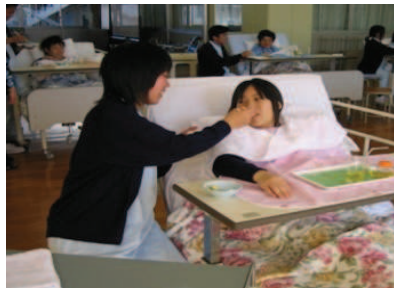


生涯を通していきいきと安心して暮らせる地域づくり

誰もが必要なサービスを自ら選択し地域で安心して生活できるよう、自助、互助、公助が一体となった地域福祉を目指しています。

そのために、地域包括支援センターや地域活動支援センターが拠点となり、高齢者や障がい者が地域で自立するために必要な支援を提供するとともに、相談支援等により常に高齢者と障がい者の声を聞き、サービスの利用促進と充実にも努めています。

また、未来を担う子どもたちの安全確保と健全育成を積極的に図るとともに、保育施設の充実、ひとり親家庭への支援、延長保育、障がい児保育など子育て環境の整備を推進します。



食事介助の体験教室



あそ上寿園訪問

地域とともに支えあう

安心のまちづくり



活用しながら次世代に残す豊かな自然環境

豊かな自然環境をいつまでも美しく保つ

阿蘇のくらはは、先人たちが守り育ててきた自然環境から様々な恩恵を受け営まれていきます。

美しい田園、緑豊かな森林、さわやかな草原、清らかな水など、これらの自然環境を保全・活用し次世代に繋げていくことは、今の私たちにとって重要な責務です。



草原の清掃活動



草原環境学習



阿蘇を彩る植物



希少野生動物のオオルリシジミ

安全で便利な生活環境づくりを推進する

環境の変化に対応できる快適な生活環境づくりを推進しています。

生活の基盤である道路及び河川については、計画的な整備と適切な維持管理に努めています。

市民生活の利便性を向上させるため、公共交通の拠点整備・促進・見直しを行い、地域の実情や要望を考慮した路線バスの再編や、乗合タクシーの導入を積極的に進めています。



成川中通線



下水道処理施設

上下水道は、公衆衛生の向上と生活環境の改善、河川などの水質保全を目的とし、安心・安全な水の供給、排出に努めています。

情報通信基盤については、地域活性化と連動した光インフラを市内全域に整備するとともに、各世帯へ設置したIP告知電話「お知らせ端末」への告知放送など、急速な情報化社会の伸展に対応するための取り組みを進めています。



各世帯のお知らせ端末は令和5～7年度で新しい機器に更新予定（画像はイメージ）



阿蘇市営住宅「赤水西団地」

令和4年12月1日現在、857戸の市営住宅を管理しています。平成17年度に策定した阿蘇市営住宅総合基本計画に基づき、ユニバーサルデザインを取り入れた公営住宅建替事業に取り組んでいます。

ASO環境共生基金
阿蘇の自然を維持・保全し後世に引き継ぐため、「ASO環境共生基金」を設けています。阿蘇に想いを寄せていただける全国各地の方々のご支援を寄付（募金）として受け、阿蘇の自然環境保全、子供たちへの環境教育などの事業資金として活用しています。



乗合タクシー

路線バスの廃止等により、「公共交通機関がない地域」と「公共施設や商店街、医療機関のある市街地（宮地・内牧・坊中）」を結ぶ公共交通機関です。



運行日や運行時間が決まっており、利用する際は事前に予約が必要です。利用者の方々が乗り合っていくことになり、料金も低額で安心して利用できます。

安全で住みよいまちを支える

生活環境



阿蘇駅と路線バス

市民の暮らし、生命・財産を守る 防災防犯体制の充実

安心して暮らせるまち
であり続けるために

世界有数のカルデラ地帯内に位置する阿蘇市は、火山灰地質に覆われ、災害が発生しやすい地質条件にあります。自然災害が発生しても被害を最小限に食い止めるよう、防災対策の充実に力を注いでいます。



阿蘇中岳の爆発的噴火を想定した山上避難訓練



避難訓練時に行われた応急手当講習

消防・防災体制、防犯体制の充実と、市民一人一人の防災・防犯意識の徹底による予防対策の充実に努め、あらゆる災害と犯罪から市民の生命・財産を守ることを基本に、防災面では平成24年の九州北部豪雨、平成28年熊本地震の経験を踏まえ、安全で災害に強いまちづくりに取り組んでいます。



各種交通安全推進団体による交通安全運動

「お知らせ端末」と同じ告知が
スマホに届きます！

各世帯に設置の「お知らせ端末」で配信される市役所や学校からの各種情報がスマートフォン、タブレット、パソコンのブラウザで受信できます。また、利用者が情報を投稿し、利用者同士で情報交換できます



多様なツールで防災情報を提供
↳ 防災情報伝達手段の多量化

災害から大切な家族の身を守るため、正確な防災情報を入手し、早めに行動することが重要です。阿蘇市では、防災行政無線のほか、安全安心メール・防災アプリ・LINEなどの多様なツールでいち早く防災情報を届けます。



医療を通じて住みよい
環境を整える

地域での疾病の予防や健康の維持、増進のための活動、在宅の慢性疾患の患者、地域で暮らす高齢者、障害者の介護支援や専門的な助言、妊婦の保健指導など疾患の治療だけでなく、幅広く活動を行い、地域の人々が安心して暮らせる環境を整備しています。



AED講習

阿蘇医療センターは、旧阿蘇中央病院を前身として、平成26年8月に新築移転しました。
脳疾患・心疾患の救急医療体制のほか地域の需要に対応した診療機能を整備し、安全安心で良質な医療の提供を基本方針に日々の活動に取り組んでいます。
政策医療面においては、5疾病（脳卒中・急性心筋梗塞・がん・糖尿病・精神疾患）5事業（救急医療・災害医療・へき地医療・小児医療・周産期医療）+2（在宅医療・感染対策医療）を担うなど、阿蘇圏域の中核病院としての機能充実を図っています。圏域唯一の第二種感染症指定医療機関でもあるため、指定医療機関として更に機能強化を図り使命を果たしていくとともに、医療政策の諸課題に対応していき、地域における医療需要や疾病構造の変化に適切できる体制整備に継続的に取り組んでいきます。



消防救急

病院群輪番制病院運営
及び休日在宅医

阿蘇地域では、平日の夜間及び休日の昼夜間の救急医療に対応する病院群輪番制病院運営事業を行っています。内科または外科のいずれかを毎日5病院（阿蘇医療センター・阿蘇温泉病院・大阿蘇病院・小国公立病院・阿蘇立野病院）が担当していますので、休日でも夜間でも常に受診できます。
また、日曜、祝日には市内十数箇所の民間病院が交代で診療する休日在宅医事業も行っています。



消防団辞令交付式

安心して暮らすために欠かせない
地域医療の充実



阿蘇医療圏の中核的な医療を支える阿蘇医療センター



特産のそば



間伐の様子



人工林の杉林



高冷地野菜のキャベツ



トルコギキョウの栽培

【林業の振興対策】
多様な森林施業をより効率的かつ低コストで行うために森林環境譲与税等を活用し、林道・作業道等をはじめとした生産基盤を整備するとともに、森林の有する公益的機能の増進のため複層林・長伐期施業を推進し、本地区特有の自然条件を背景に活力ある森林づくりを目標として振興を図っていきます。

農林業の多面的機能
を有する阿蘇

農林業を営むことで、国土の保全、九州の水源涵養、圃場の地水機能、自然環境の保全、良好な景観の形成が図られ、災害に強い環境が整います。

また、先人の貴重な技術や食文化の伝承、地産地消による学校の食育活動や農福連携など、多面的な機能が発揮され、私たちの生活に大切な役割を持っています。

地域の特性を生かした阿蘇ならではの農業



トマト（夏秋）



いちご



アスパラガス

【農業振興対策】
高齢化や担い手不足が深刻になっている中で、スマート農業等の新技術の活用により作業の効率化・省力化を推進し、限られた地域の担い手による農地の維持と同時に経営基盤の強化を図り安定した経営のできる農業の政策を展開します。また、新規就農者の技術取得のための研修や就農後のサポートを関係機関と連携して実施し、確実の就農、後継者の確保に取り組んでいます。

農産物ブランド化と、地域農業の再生を図る。

【畜産の振興対策】
阿蘇の広大な草原の維持や環境改善には畜産の連携は重要なものです。草原を利用した周年放牧などの推進、効率的で生産性の高い畜産経営の育成により自然資源の維持が図られます。また、耕種の水田作物と畜産の堆肥提供との耕畜連携の強化を含めた有機資源循環の推進により自然環境の改善が図られます。このように水田と草原を利用した畜産経営の効率的な安定化の強化に取り組んでいます。



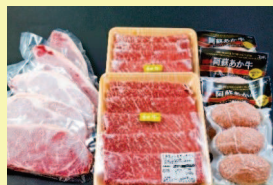
農産物加工品

阿蘇市では、地域を活性化していく手段として、地元的美味しく新鮮な野菜などを使い、市販品では味わえない豊かで美味しい農産物加工品を開発・商品化してきました。

「阿蘇たかな漬・あか牛」をはじめ、阿蘇の農産物を用いるさと納税の返礼品やネット販売等により全国で購入ができた知名度が上がっております。加工品は、農産物の推進、そして農業の振興には欠かせないものです。今後も農産物加工品の開発・推進を図っていきます。



「阿蘇たかな漬」混ぜご飯の具としても最適で、「たかな飯」は地元料理の定番となっています。



あか牛を使った商品



農産物加工グループなどの商品



波野高原そばで作ったそば商品



無人田植えの実演



ドローンによる防除

活力あふれる農林業の振興



実りの秋の稲刈り作業



季節ごとの阿蘇の田園風景



内牧温泉

明治30年、地元の人が灌漑用の井戸を掘っていて、たまたま湯が噴き出しました。この小さな出来事が大きな福音をもたらし、内牧では掘湯ブームが起き、県内有数、阿蘇谷最大の温泉地に成長しました。多くの文化人も訪れ、阿蘇の大自然に心打たれ、優れた作品を数多く残しています。現在は、映画の撮影があるなど、多くの人々が愛する温泉街として今も知られています。



国道57号北側復旧道路

令和2年10月、トンネルを含む高規格道路の開通により、物流をはじめ通勤や観光においても大変便利になりました。

今後、優良企業や施設の誘致に努め、若い世代のための魅力ある就業機会の創出に積極的に取り組まします。



内牧商店街の様子

内牧地区は、明治30年から温泉郷として栄え、温泉街の道沿い約1キロメートルに商店街が形成され、地元と密着した商店街として、なくてはならない存在となっています。内牧温泉街では、各種団体・商店主・商工会・行政等様々な人が参加する「内牧温泉街繁栄会」を組織し、まちづくりのビジョンと活性化に向けた方策を検討しています。また、経営者の意識向上のため、内牧温泉の旅館のおかみさんによる勉強会の実施や、商店主による地域づくり活動など、活性化に向けて取り組んでいます。



内牧温泉街繁栄会の活動



赤水地域への企業誘致

企業誘致で持続可能なまちづくり

地域を活性化する商店街の取り組み

阿蘇市では、行政・各種団体・地域住民が「一丸」となり、地域活性化に取り組んでいます。

宮地地区は、阿蘇神社の門前町として、神社の参道から延長して商店街が形成されています。株式会社まちづくり阿蘇一の宮（TMO構想）による阿蘇神社の周辺整備や、一の宮ボランティアガイド

によるサービスの実施、地元商店街有志の「阿蘇門前町商店街振興協会」の活動が活発です。水基巡りを核とした地域おこしで商店街の結束と意欲を高めています。

その活動が実を結び、現在では1年を通して観光客が訪れるなど、阿蘇市を代表する商店街となっています。



門前町水基巡り

阿蘇神社周辺の商店街には、「水基」と呼ばれる湧水を利用した水飲み場があります。地元では、この水基を巡りながら商店街を散歩できる仕組みをつくり、魅力アップとにぎわいのある商店街づくりを進めています。

資源を生かした地域振興 活力ある産業づくり



阿蘇市では、サイクルツーリズム推進のために「阿蘇サイクルツーリズム学校」通称『コギダス』を発足しました。サイクリングを通して、阿蘇を訪れる人と、阿蘇にお住いの皆様に街の魅力を発見してもらうことが目的です。

サイクルツーリズムとは、自転車を通じて交流を図る観光のことで、自転車ならではの利点を生かして、阿蘇の日常風景、「食」や「人々との触れ合い」を楽しむ新しい観光スタイルです。

コギダスでは、サイクリストを魅了する様々な魅力をアクティビティや観光スポット等の切り口からご紹介します。

コギダスHPアドレス：http://kogidasu.jp/



第2次阿蘇市総合計画

本市では、平成17年の誕生以降、新たなまちづくりの指針となる「第1次阿蘇市総合計画」を策定し、市民の皆様のご知恵と工夫、参加をいただきながら教育・医療・福祉・防災・経済等、市民生活の向上・充実に努めてまいりました。しかし、少子・高齢化や、若年層を中心とした都市部への人口流出による地域の変化、手不足など様々な課題が生じています。このような社会の変化に対応した行政運営を進めるため、令和3年9月に「第2次阿蘇市総合計画（後期基本計画）」を策定しました。

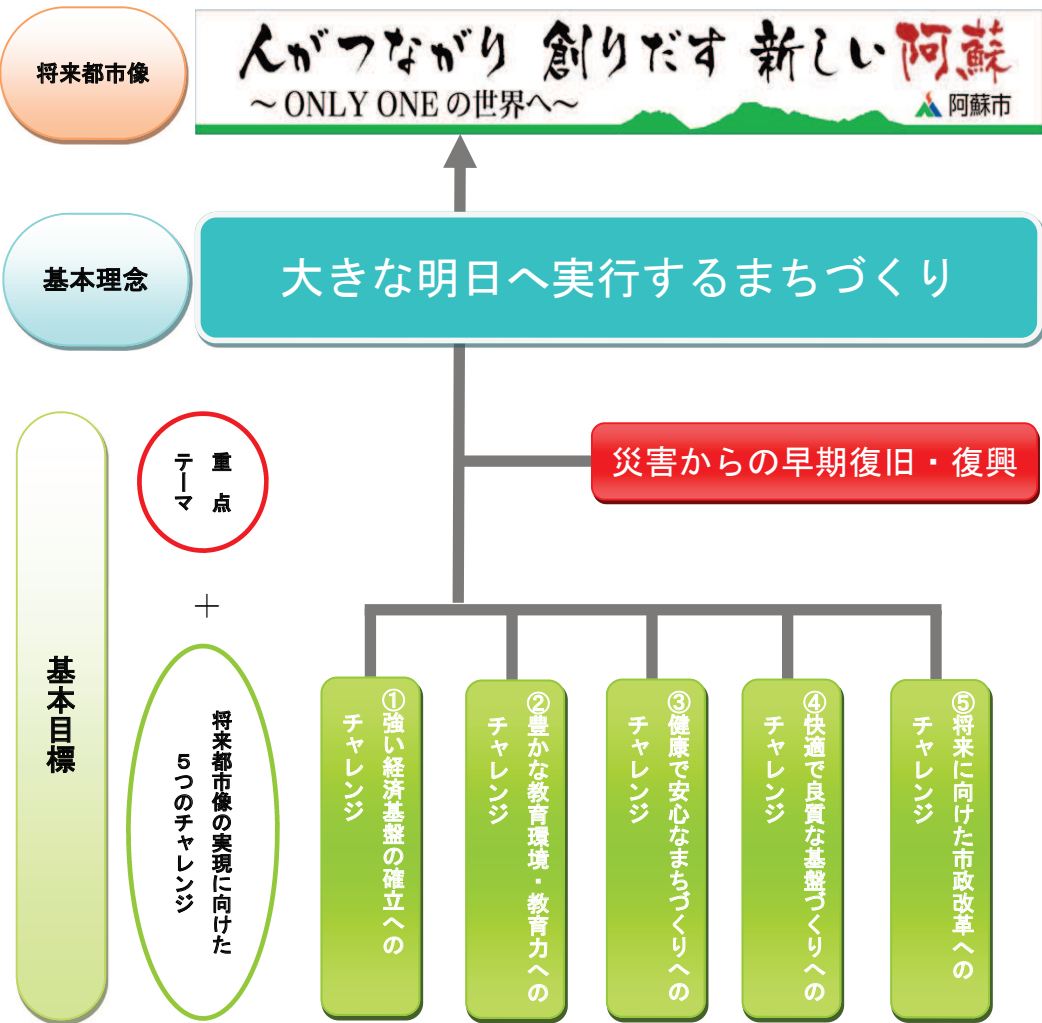
魅力あふれる阿蘇市を目指して

本計画は、まちづくりの中長期的な指針を示した基本構想、基本構想で取り上げた将来都市像の実現に向けた政策的に示した基本計画、基本計画に掲げられる政策を実施していくための具体的な事業や財政計画を示した実施計画から構成されます。

基本構想は、まちづくりの進めた先に目指す将来の姿を定めた「将来都市像」、将来都市像実現のために必要なまちづくりを進めるうえで指針を定めた「基本理念」、地域の現状と基本理念を踏まえ、事業や政策等を進めるにあたっての個別的な目標である「基本目標」から構成されます。



●基本構想の体系図



●将来都市像

「人がつながり創り出す新しい阿蘇（ONLY ONEの世界へ）」
人は、お互いがつながりを持つことで、巨大なパワーが生まれます。そして、そのパワーを源に、あらゆる分野にチャレンジし続けることによって、「世界のONLY ONE」となるよう、魅力あふれる新しい阿蘇市を創造・発信するという思いが込められています。

阿蘇市は、多様化・複雑化するニーズにこたえるため、市民・事業者・行政等の協働により、熱い情熱と大いなるチャレンジ精神をもった未来志向型の施策を展開し、誰もが住んで良かった・働いて良かった・訪れて良かったと実感できるまちづくりを進めていきます。

●基本理念

「大きな明日へ実行するまちづくり」
人口減少社会の到来をはじめ、新型コロナウイルス感染症の拡大など社会経済情勢が大きく変動する中で、市民と行政の協働による計画的な行政運営を進め、将来にわたって着実に実行・挑戦（チャレンジ）していく阿蘇市を目指します。

●基本目標

将来都市像実現のため、度重なる災害被害からの早急な復旧・復興の取組を掲げた「重点テーマ」と各方面において挑戦する政策推進の目標を掲げた「5つのチャレンジ」を定めました。

行政

愛する郷土を守り、更なる飛躍と発展を遂げる。

阿蘇市の行政機構は5部22課に分かれています。刻々と社会情勢も変化し、様々な状況の中、臨機応変で迅速な対応が求められます。本市も効率的な行政運営を行うため、部課の連携を強化することで、市民のニーズによりよく応えるサービスを展開できるように努めています。

また、現代の複雑かつ多岐にわたる行政ニーズの中で、望ましいまちづくりを進めていくためには、活気に満ち自立した市民の積極的な参加と協力が欠かせません。市民一人一人があらゆる場でまちづくりの主役として、生き生きと活動できるよう、今後も市政への参画の機会を拡充していきます。



市長 佐藤 義興



副市長 和田 一彦



教育長 坂梨 光一

愛する郷土を守り、更なる飛躍と発展を遂げるための第一歩、それは、やはり行政改革です。より効率的な行政運営を行うためにも、今後もさらに行政のスリム化を図り、限られた財源をより有効に活用すべく、改革を推進します。行政改革の断行こそが、阿蘇市が将来に羽ばたくための基礎づくりとなります。



議会

主役はいつも市民。まちの未来をともに築き、開かれた議会を目指す。

議会は、市民から直接選挙により選ばれた市議会議員によって構成され、市民の代表機関として、市の予算や重要な事柄を審議、決定します。日常生活にかかわる様々な事項について、執行機関と真剣に議論を行い、市民の声を行政に反映させる場です。また、議会には、議案などを専門的に審議するために、部門別



審査する総務、文教厚生、経済建設の3つの常任委員会を設けています。市民一人一人の声を、様々な施策の中に生かすために、市議会では市民ニーズを十分に把握しながら、市民の皆さんとともに地域の活力ある発展とその実現に向けて積極的に取り組んでいます。



市議会議員団 阿蘇山噴火被災状況視察



市広報誌「あそ」

毎月1日発行。行政からのお知らせやまちの話題、市民の活動など、幅広く地域に密着した情報を掲載しています。各世帯に配布しており、市内の施設などからも入手できます。



議長 菅 敏徳



副議長 谷崎 利浩



市議会だより かるでら

議会での審議や、一般質問の内容などを、より多くの方々にお知らせするための刊行物として、年4回発行しています。